

ちよつとしい話

～ お香 ～

私達が毎日つとめる^{きやうもん}経文の冒頭に出てくる偈文に「願我身浄如香炉 願我心如智慧火
念念焚焼戒定香 供養十方三世佛」とあります。これは、^{ぜんどうだいし}善導大師の「浄土法事讚」の中から
抜粋されたものです。説明すると、「願わくは、この私の身体の清らかなことが、香炉のよう
でありますように、願わくは、この私の心が、智慧の火のようでありますように、一念一念に
戒と^{じまう}定の香を焚いて、あらゆる世界に於いて、過去、現在、未来にわたって在します^{みほとけ}御佛を
供養いたします。」という意味です。皆様が、お寺の本堂にて^{ごんしほ}嚴修される特別大法要に参加さ
れる場合、本堂入り口に置かれている象の形をしている香炉を男は左足、女は右足にて^か踏いで
心身を清めてから入道するのです。私達は毎日生活をしていく中で十善戒を守る事は不可能で
す。よく考えて行動しているつもりでも、自然に不浄な事をしてしまっているのです。毎日お
仏壇にお灯かりを燈し、お線香を立て静かに座して手を合わせ、偈文の意味を頭に浮かべて称
えて下さい。

- * 戒：十善戒と言って、殺さない、泥棒しない、^{だま}騙さない等十の戒があることです。
- * 定：雑念を滅し心を静めた境地。
- * 三世：過去、現在、未来、永劫の時間。

お香は、佛教の伝来552年に百済から^{くたろ}仏像や経典と共に伝わってきました。お経の中に
三宝に供養するには、衣、花、香の大切さが説かれています。お墓にはお線香が使われます。
お仏壇やお寺参り葬儀の時などにはお焼香をします。この様なときに使われるお香を一般的に
五種香と呼んでいます。五種香とは^{まから}伽羅、^{じんこう}沈香、^{びやくだん}白檀、^{ちやうじ}丁香、^{りゅうのう}龍腦の五種類を混ぜ合わせた
ものです。伽羅が香の中で最高級ですが、なかなか手に入りません。ですが多少の無理をして
も、毎日が心身健康にして健全なる私であります様に仏様に対して、少しでも良質の線香や、
お香を供えましょう。その^{きうくわん}香薫が私達の「^{ろっこん}六根」、即ち、^め眼、^{みみ}耳、^び鼻、^か舌、^{しん}身、^い意、全てを^き清め
てくれるのです。ですから、良質の「お香」が必要になるのです。

善入院油掛地藏尊